

## 海外に渡る名大生たち

名大が受け入れている外国人留学生の数は、1980年代から増え始め、2000（平成12）年に1,000人、2012年度に2,000人を超え、2023年度は2,640人になっています。これに対し、海外に留学する名大の学生の数が多くなったのは、意外にも比較的近年のことです。

留学する名大生の数は、2005年度によややく188人、その後も伸び悩み、2009年度になっても150人とどまっていました。それが、2009年4月に濱口道成が総長に就任すると、状況が大きく変わることになりました。

「名古屋大学からNagoya Universityへ」を大学運営のスローガンに掲げた濱口総長は、名大生の海外留学にも積極的であり、そのための教育の質の向上に取り組みました。まずは海外留学の前提となる学生の外国語能力の強化です。特に英語については、2009年から独自の教材やカリキュラムにTOEFL等の世界標準試験の活用を組み合わせた英語教育を実施しました。また、海外の

大学での英語以外の言語を含めた語学研修プログラム等を通じて、地元志向が強いと言われることもある名大生が異文化に直接触れられる機会を増やしました。

そのほか、2011年度から始まった博士課程教育リーディングプログラムでも、多くの学生を海外研修に派遣しました。さらに、「大学の世界展開力強化事業」による学生交流プログラムの推進等を通じて、海外への留学や研修を学修単位として認める制度を設けました。また、名古屋大学基金を利用して海外留学奨励制度を創設し、渡航費補助を行いました。

こうして、濱口総長の任期最終年度の2014年度には733人もの名大生が海外留学を経験するようになりました。濱口総長は、1,000人をめざしたいと述べて任期を終えましたが、その翌年度には1,000人を突破しました。その後、感染症による危機を乗り越えて、海外に渡る名大生の数はさらに増えています。



- 1 名古屋大学学生の海外留学者数の推移（各年度の『名古屋大学プロフィール』による）。2020年度以降はオンライン留学を含むが、2023年度はそれを除いても1,315人を数えた。同年度の留学先（オンライン留学除く）は、281人のアメリカが最も多く、148人の韓国がそれに次ぐ。
- 2 中国上海の同済大学での短期中国語研修（2011年度）。
- 3 フライブルク市のイベントで、ドイツ語で日本文化を紹介する名大生（2017年、全学教育科目「欧州現代事情I」の短期研修）。



名古屋大学の卒業生、  
現役・退職後の教職員の方々へ

名大史をつむぐ資料を  
大学文書資料室に!



- 在学時の配布物  
(学生便覧、シラバス、試験問題、課外活動の資料…)
- 教育・研究活動、大学・部局運営に関する資料  
(各種書類、会議のメモ、備忘録、スクラップ記事、写真…)
- 校費による印刷物・刊行物  
(冊子、パンフレット、ポスター…)
- ご退職関係の記念冊子・記念論集・業績集… など

※その他、ご処分予定の資料についても、まずは下記へご一報ください。

東海国立大学機構大学文書資料室

TEL 052-789-2046  
Mail nua\_office@cc.nagoya-u.ac.jp